

建設未来京都フォーラム 2017 記念事業付録

日刊建設タイムズ連載版

“建設ディレクターものがたり”

一般社団法人建設ディレクター協会

## 『建設ディレクターものがたり』

一日刊建設タイムズ連載版転載にあたって一

さる7月18日からスタートした“第2期建設ディレクター育成講座”は、9月26日に全10回の講義を終了し、第2期受講生の皆さまは、それぞれの職場で学習したスキルや知識を発揮して、活躍をスタート。

『日刊建設タイムズ』の紙面で、“建設業の新たな職域、建設ディレクター”について「建設ディレクターものがたり」と題して、連載記事が掲載されました。連載では、建設業の方々に広くご理解いただくために、建設ディレクターについてのご紹介や、各回の講義の様子を伝えています。

建設業における現場とオフィスを、ITスキルとコミュニケーション力でつなぎ、生産性向上を目指す建設ディレクター育成講座。建設業の使命や意義を学ぶ受講生の方々の様子とともに紹介した記事を転載いたします。ご高覧いただければ幸いです。

一般社団法人建設ディレクター協会

## 建設ディレクターものがたり

### 連載①『建設業の女性活躍は、学習と仲間づくりから』

皆さま、はじめまして。(一社)建設ディレクター協会事務局の山辺あさひと申します。来る7月18日(火)から、“第2期建設ディレクター育成講座”が開講いたします。『建設タイムズ』をご購読の皆さまに、今回から12回に亘り、“建設業の新たな職域、建設ディレクター”についてご紹介してまいります。

“建設ディレクター”とは、現場担当者が担う積算業務などの多様な業務を、支援する新たなオフィスでの職域です。建設業で働く女性たちが、建設ディレクター育成講座の受講を通じて、より高いITスキルとコミュニケーション力を身に付けます。また、建設業の社会的意義や歴史に触れ、現場担当者が担う多様な業務を深く理解したうえで、書類作成やCAD、積算などの多様な業務をサポートし、建設業の生産性アップを目指すものです。

“建設ディレクター育成講座”では、1)建設フロントマネージャー、2)積算マネージャー、3)建設コストマネージャー(原価管理)の3つのマネジメント力を育成するプログラムから構成されています。すでに第1期を修了された15名の方々が、建設業で活躍しておられます。

男性社会とも言われる建設業が、他産業と同様、多くの女性が活躍する産業となるために開設された“建設ディレクター育成講座”。新たに17名の方々が第2期受講生として、学びの場に出会います。建設ディレクター育成講座は、建設業での活躍を目指す女性たちに向けた人づくりの場でもあり、学習を通じて、同期生の方々が豊かな交流を築く仲間づくりの機会でもあります。

少子高齢化の進行する建設業では、高い業務スキルとコミュニケーション力を持った女性活躍が期待されています。建設ディレクターは、次世代型の建設業を担い手となることを目指します。

## 建設ディレクターものがたり

### 連載②『もっと女性が活躍できる建設業に！』

建設業の新たな職域「建設ディレクター」の創設は、国土交通省が平成 24 年 8 月に発表した『もっと女性が活躍できる建設業行動計画』というアクションプランを背景にしています。( <https://www.mlit.go.jp/common/001052116.pdf> )

冒頭 1 ページ目には「I もっと女性が活躍できる建設業へ」と題して、女性活躍に期待を込めた、素晴らしい理念が記載されています。

—以下、引用—

「—建設業界は、男女の分け隔てなく、意欲ある人材の活躍を期待しています。女性が働きやすい現場や業界にしていくことは、現場の環境や仕事の進め方に変化をもたらし、男女問わず誰もが働きやすい現場や業界に繋がります。

建設業は、多くの業種において、意欲ある方が技術や技能を修得することによって、男女問わず活躍できる業界です。例えば造園やリフォームなど、従来よりも新たな感性や洗練されたデザインセンスを要する現場や生活者目線が活きる分野、会話力などのコミュニケーション能力を活かすことができる職種など、女性が力を発揮している場面もあります。

また、女性が活躍することで、例えば長時間労働など、これまで男性だけでは解決できなかった様々な問題についても工夫が生まれ、効率的で快適な職場環境の整備につながります。

—」

以降、平成 27 年 8 月には内閣府から提示された「女性活躍推進法」の成立など、女性活躍を実現するための施策が各省庁から次々と打ち出されています。

建設ディレクターの活躍の場が広がります。建設業における様々な業務をリストアップし、洗い出した結果、現場担当者の業務の一部を、IT スキルやコミュニケーション力を習得することで、社内業務を担う女性がサポートできる多様な業務があることがわかりました。

いよいよ 7 月 18 日（火）から、“第 2 期建設ディレクター育成講座”が開講いたします。(一社)建設ディレクター協会事務局の山辺あさひが、講義の様子や受講者のご感想などを『建設タイムズ』をご購読の皆さまにご紹介してまいります。

## 建設ディレクターものがたり

### 連載③『百花繚乱の建設業』

ひと口に建設業と呼ばれますが、建設業法による業種は 29 種類と定められています。解体工事を扱う解体工事業、水道施設工事を行う水道施設工事業、内装仕上工事の内装仕上工事業、電気通信工事業などを含め土木一式工事を担う土木工事業、建築一式工事の建築工事業など多種多様な職種から構成されています。

(<https://www.cgr.mlit.go.jp/chiki/kensei/kensetu/pdf/itiran.pdf>)

災害列島ともいわれる日本の災害現場に自衛隊、警察などの救援隊が到着する前に、いち早く地元の崩れた道路を拓く啓開作業に汗を流す地域建設業の人びとの存在があります。しかし、残念ながら建設業の人びとが私たちの安全な暮らしを護る姿を目にする機会は限られています。また、建設業の人びとは、自らの役割を声高に語ることはありません。すべての職種がプロフェッショナルなのです。技術や技能を発揮して、社会や暮らしに役立つことこそが建設業の使命だと自覚し、寡黙に徹しているようにも見えるのです。

建設業の役割をいま一度、丹念に見つめ直す時期に来ているのではないのでしょうか。私たちの社会は、今や消費するだけの時代から、限りある資源を大切に有効活用する時代、サステナブル社会に移行しています。そのような時代背景の中で、社会に建設業が果たす役割は重要です。

さて、7月18日にスタートした第2期建設ディレクター育成講座。17名の受講生の皆さんが京都サンダーのセミナールームで第1回目となる講義を受講しました。午前中は、建設業に求められるコミュニケーションスキルの学習です。初顔合わせとなるオリエンテーションで自己紹介を行いました。それぞれに異なる建設業の職場から、新たな同期生との出会いの場となりました。

午後の部では、建設業を取り巻く各種制度や社会的役割についてなどを俯瞰的に学習し、さらに企業の中で建設ディレクターに求められる役割について詳しく解説が行われました。多様な建設業の全容を深く理解したうえで、建設ディレクターとして、業務に向き合うことで定着率アップにもつながるのではないのでしょうか。

梅雨明けの暑い中、講義の内容を各自の業務にフィードバックする受講生の方々は、充実した表情で第1回目を終えました。

## 建設ディレクターものがたり

### 連載④『よりよいコミュニケーションで相互理解を！』

建設業における技術・技能の研鑽と安全の確保は、最も重要な観点として捉えられ、CPDなど継続学習セミナーのユニット対象プログラムとしても設定されています。

一方、工事を担ううえでは、技術力、安全の確保とともに、発注者との交渉や工事対象地域の住民への説明など、多様な関係者に対するコミュニケーション力が求められます。

建設業では、ともすれば技術力、安全の確保に偏重されてきた経過があり、コミュニケーションの重要性については、昨今ようやく語られるようになってきました。典型的な男性社会とも言える建設業においては、“男は黙って仕事に励む”と言った従来の価値観のもと、多くの男性が苦手するのが、他者（同僚や女性）の感情を読み取り、対応するためのコミュニケーション力でした。

しかし、少子高齢化の進行する建設業においては、女性活用などを含む多様な働き方改革の一環として、相互理解を深めるためにも、積極的に社会に発信する建設業としても、コミュニケーションスキルはますます重要になってきています。

さて、7月25日開催された第3回建設ディレクター育成講座では、ビジネスコーチの栗栖佳子氏からコミュニケーションとは「スキル」であることを理解したうえで、対応することが大切さを学びました。

自分自身の苦手な部分と伸ばすべき部分を明確にしたうえで、「でも・だって・無理」などの否定的な言葉ではなく、「それから・これから・どうすれば」といった肯定的な表現を使うことで、他者の才能を伸ばしたり、組織をいい方向へと変化させていく方法について学習しました。

さらに、「アンガー（怒り）マネジメント」の講義では、より良い人間関係を手に入れるために必要な、自身の怒りの傾向を知るための知識を学習しました。また、人間生活の基本ともいえる「伝える」ためのスキルを学び、『相手の行動を引き出す』ことを目的にした、グループワークを行いました。

受講生の皆さんは、建設ディレクターとして働くうえで必要となるコミュニケーション力の大切さについて、あらためて理解を深めました。

(<https://www.knowledgebx.com/blog>)

## 建設ディレクターものがたり

### 連載⑤『建設業の意義や使命を理解して、職業意識を高めよう！』

医師免許取得する学生は、技術の習得とともに医学や医療の基礎的概論や社会的意義を学ぶことで、職業意識を高め、プロフェッショナルな医師として成長するといわれています。また、教師免許取得や保育士養成でも、その専門領域の使命や社会的意義などを学習します。さらに新入社員としてさまざまな産業においても、それぞれの企業の組織的背景や社会的な意義を伝える場が研修プログラムの一環として設定されています。職業意識を高めることが、技術力を高めるとともに定着率アップにもつながることを図っているのです。

建設ディレクター育成講座においても、建設業の歴史的背景や社会的役割、使命の学習メニューを設定しています。

8月1日(火)に第3回目となる講座では、『建設産業概論』について学習。元近畿地方整備局で活躍した2人の講師による講義は、近年、地震や局所的大雨などによる災害が頻発し、災害列島ともいわれる日本における建設業の社会的役割や意義について、大局的な観点から理解を深めました。

まず、「災害列島日本における建設業の課題と役割」と題して山本剛氏(関西大学講師)から、災害が多発する日本において建設業がどのような役割を担っているかについて、災害現場の復旧など豊富な経験と事例をもとに解説。今後予想される災害とは一体どういうものであるのかを実際に起こった災害事例の画像や映像を見ながら学びました。

午後の部では、中野普蔵氏(元国土交通省近畿地方整備局建設産業調整官)から「建設業法」についての講義が行われました。建設業法や経営審査事項、建設産業の現状について、専門的な視点での解説がありました。建設業法の目的を用語などの定義を明確にしながら学習。また、行政での経験をもとに一括下請負等の禁止事項などについて豊富な事例を交えた講義が行われました。

建設ディレクターに求められる業務スキルやコミュニケーション力を学習するとともに、建設業や所属する企業特有の歴史や今日までの背景を学ぶことで、建設業界全体を大きく把握することを目指しました。

## 建設ディレクターものがたり

### 連載⑥『建設業マネジメントは多面的！』

あらゆる仕事には、経済的制約や人的制約が伴います。さらに建設業には天候、地理的条件という自然の制約も加わります。一つの工事完成までには、様々な工程を経て、安全とともにその品質を確保し、そして原価管理にも細心の配慮を払う厳密な施工管理が求められます。

現場代理人や現場監督と呼ばれる現場リーダーのマネージング力は元請け、下請けなどの重層的な工事関係者にとって工事の成否を左右する大切な要素といえます。また、工事に従事する一人ひとりの技術者や技能者にとっても、効率的で生産性の高い施工管理は、より完成度の高い工事を実現するための重要な要素となります。

建設業は、その多くが一つの工事を元請けと下請けという施工業者で構成されるプロジェクトチームで工事完成を目指します。一つの成果物を完成するまでの工程を、共に取り組む仲間や上司の指示を理解して、完成することが求められます。つまり、技術力とともに現場における最適なコミュニケーション力が求められているともいえます。

第2期建設ディレクター育成講座第5回目では、「施工管理の基本」について学習。まず「管理」という言葉が付くものについて考察しました。マネージング、財務管理、経営管理、工程管理、原価管理など様々な用語がありますが、「管理」という単語とはそもそも何かを定義しました。

その上で管理をするために必要なルール作りを、たこ焼き屋さんを経営することに例えて演習を行いました。次にグループワークを通して、より良い意見や考えを取り入れて、発表、再び構想、発表というグループワークを繰り返しました。その中から、本当に必要なことが取捨選択できるということを理解。思考プロセスを重ねることによって、様々な危険や現場を想定した、よりよいルール作りが可能になり、発注者や相手の満足度を得ることが可能になるのです。

施工管理の基本として、工程管理・品質管理・原価管理、施工管理の立案・工程表について、理解を深め、理解度テストに取り組み、受講生の皆さんは、現在の自分自身の力量や理解度をチェックする実践的な講義となりました。



## 建設ディレクターものがたり

### 連載⑦『CAD ソフトではじめての図面づくり』

建設ディレクター育成講座では、開講にあたって 17 名の受講者の方々に“事前アンケート”を実施しました。

アンケート回答では、育成講座への申込みを決めた理由として、「会社からの指示で受講した」という回答が一番多く寄せられました。建設業では、技術指導や安全教育については、最優先課題として社内教育や社外での講習会など多様な機会が設定されています。

加えて受講生の所属企業の経営者や教育担当者の方々は、IT スキルやコミュニケーションスキルについても習得を期待されているといえます。建設ディレクター育成講座では、建設業の概要や歴史的背景など、建設業を大局的にとらえ、社会や地域に果たす役割や使命についてもプログラム設定しています。

また、質問「一緒に参加する受講生の方々に期待すること」では、建設業で働く様々な人の意見を聞きたい、仲間づくり、情報交換という回答が多く寄せられました。建設業では、社内で同期生が複数存在することは数少なく、先輩や経営者の指導を受けながら育ちます。そこで、育成講座では、受講生同志の交流の場の設定や、同期生同志の仲間づくりを大切にしています。ゆるやかな社外の仲間との交流が定着につながるかもしれません。

さて、8月22日（火）第5回目では、「IJCAD 初級トレーニング」と題して、CAD 作成の基本的な操作方法について、実際にパソコンを使って CAD ソフトで、図面作成の基礎知識や基本操作を学習しました。

まずは使用する CAD ソフトの紹介後に、テキストで詳細を確認しながら、インターフェースや保存形式の注意点、頻繁に使用するツールや画面操作の説明がありました。また、各種座標の入力方法や、図形を正確に作図修正するための補助機能や、図形の長さや距離を計測する方法を学び、CAD 操作の基礎作りを行いました。

CAD ソフトに挑戦して 6 時間余り、講義の最後には、寸法線と引出線、文字の作図修正方法を学び、課題図面を PDF 化。受講生に皆さんは、はじめての完成図を仕上げました。

## 建設ディレクターものがたり

### 連載⑧『はじめての積算業務！』

地域建設業の多くが担う「公共工事」において、発注者である国や府・市には、工事の品質を確保する義務があり、入札公告によって、「その工事を請負う業者として適正かどうか」を判断される「入札制度」によって、最適な建設業者に委託されます。

公共工事を受注（落札）するには、精度の高い積算スキルが求められます。また、建設業の積算業務担当者は、数多くの入札を行うため、多数の積算業務を抱え、時間に追われている現状があります。業務が集中する積算担当者の業務サポートや、業務の一部を引き受けることも建設ディレクター育成講座の目指している形です。積算ソフトやIT機器の進化もあり、建設業における効率化とともに、業務分担の変化が可能となりつつあります。

8月29日（火）、京都サンダー本社セミナールームで開催された第6回目の建設ディレクター育成講座では「建設業の基礎知識と積算業務①」を学習しました。

まずは、公共工事や入札、入札方式の変遷、総合評価落札方式についての解説が行われました。続いて、公共工事参加業者の実態（ランク・業種）、低入札調査価格・最低制限価格制度や京都府下、他に代表自治体の入札状況（事前事後公表・総合評価）、設計変更について、詳しく学びました。

難解で、ち密な積算業務ですが、カレーライス10人分の積算を行う演習の場面では、わかりやすい日常生活の事例で、受講生の皆さんは、少し緊張感がほぐれた様子。

さらに「積算」について、歩掛の構成や積算基準、積算をする上での留意点、京都府・滋賀県独自の単価と市場単価に関するポイント、積算の基本について理解を深めました。

午後からは、パソコンと積算ソフトを使用し、演習として設計書を取り込み、実践的に積算業務を行いました。また、設計書だけでなく、積算参考資料、特記仕様書、数量計算書に書かれている事項を参考にして、注意すべき点や必要事項の探し方などについて、ていねいな解説がありました。

実際にパソコンを使って取り組むことで、積算に関する基本を理解することができる講義となりました。

## 建設ディレクターものがたり

### 連載⑨『積算業務の新たなパイオニア目指して！』

建設業就業者は、55歳以上が約34%、29歳以下が約11%と高齢化が進行し、次世代への技術承継が大きな課題となっており、同様に公共工事入札の重要な業務である積算業務についても、担当者の高齢化は深刻化していると見られます。

国土交通省では、平成26年に『もっと女性が活躍できる建設業行動計画』を発表して、担い手確保という意味を超えて、建設産業全体の活力、魅力、創造力の向上という観点に立って、女性のさらなる活躍を促しています。建設ディレクターの開講は、少子高齢化やイメージアップといった建設業の課題解消を目指す、女性活躍の具体的な領域づくりの提案です。

おもに男性が占めていた現場担当者が行う積算業務を、オフィスからサポートすることは、現場に行かない分、工事内容のイメージができていく、工事関係の用語が難解であることなど、はじめて積算に取り組む場合には多くの課題があります。しかし、建設ディレクターは、育成講座で習得したコミュニケーションスキルで現場の積算業務担当者と良い人間関係を構築しつつ、建設業の社会的使命を理解したうえで業務サポートを目指す、建設業の新たな職域づくりの実践者でありパイオニアでもあります。

9月5日の積算講座の2回目では、まずは入札方式の変遷から、国土交通省の低入札調査の採用について経験値・知識の必要性についての解説がありました。さらに公共工事については経費の種類や請負工事費の内訳など、前回で学んだ建設業における基礎知識についての復習を行いました。

そして「積算」については、歩掛の構成や単価について再確認したうえで、積算演習では、同じ工事の設計書のPDF読み込みを行い、一から再度挑戦しました。前回理解した学習内容を意外に忘れてしまっていることや、二回目だからこそ、あらためて理解できる部分もあり、受講生の皆さんは終始、集中して演習に取り組んでいる様子でした。

最後には、さらに新しく違う工事の積算を自分自身で演習することで、理解を深めました。豊富な資料と知識を持った講師による、ていねいな回答と解説で、実践的かつ充実した講義となりました。

## 建設ディレクターものがたり

### 連載⑩『全社一丸となって・・・とは?』

現在、京都サンダーセミナールームで開講中の建設ディレクター育成講座の受講生の中には、建設業の新たな職域「建設ディレクター」の導入を検討されている企業の経営者が数名、受講されています。まず、建設ディレクターの業務内容を把握し、自社で導入する場合の業務再編などをイメージされているそうです。高齢化が進行するなか、未来志向で、建設ディレクター導入により生産性向上の実現を目指し、同時に処遇改善についても検討するということです。

現場とオフィスに分化した職務、また社内における総務、経理という従来の業務分担に、「建設ディレクター」という新たなポストを設置する場合には、経営者をはじめ年長者、新人を問わず、職場全体での受け入れ態勢に対する理解が不可欠です。もちろん、総務・経理担当者として事務職を担ってきた担当者自身の業務拡大や変更に対する理解も必要です。少子高齢化が進行する中、経営者・従業員双方が未来志向で企業の生産性を高めるための取り組みを行なうために、全社的な職場づくりが求められます。

さて、全10回の第2期建設ディレクター育成講座では、9月12日から3回にわたり「建設コストマネージャーコース」がスタートしました。まず午前の部では、田辺直子講師（京都サンダー・キャリアカウンセラー）による「SWOT分析 建設業界と自社の強みを考える」をテーマにワークショップに取り組みました。まず初めに、目標達成のために必要な四つの指標を基に建設業界の分析を行いました。自分自身が日常で感じることや、業務の中から特徴となるものの中から、「強み」「弱み」「脅威」「機会」の四つに分類。その後、建設業が果たす役割を、①社会資本の整備②安心・安全の暮らし③環境保全と創造の三つの分野に分けて、建設業が担うべき重要な役割を再認識する場となりました。

午後の部は、伊藤弥生講師（公認会計士）から「会計業務の基礎」と題して、そもそも会計業務とは、経理・会計とは何かについて解説がありました。さらに「損益計算書」、「貸借対照表」について、作成目的や具体的な内容と、用語や語句の説明があった上で、例題を解くペアワークを行いました。最後は、建設業会計について学習しました。

受講生の皆さんは、疑問を解決しながら、熱心に取り組んでおられました。

## 建設ディレクターものがたり

### 連載⑪『建設業を支え続ける女性たち！』

建設業の圧倒的多数を占める中小企業の多くは、家族経営によるものです。家業として親から子へ、さらに孫へと引き継がれてきた経営。家長である男性の活躍を支えてきた経営者家族には、経営者夫人の姿があり、常務、専務として男性・女性を問わず経営者の子どもたちや親族が担ってきました。建設業に関わる多くの女性たちの存在があった経緯を認識したうえで、建設業における女性活躍について考える時ではないでしょうか。

ある公的財団がおこなった、「一般職」女性の活躍に向けた調査研究においては、男性と同じ働き方を期待されている「総合職」に対して、仕事は限定的で移動が少ない一般職については、育成が不十分という問題を抱えており、女性活躍推進法においても、一般職女性の育成に注目を当てる企業数は、多くないことを指摘しています。

建設業における女性活躍においても、いわゆる「どぼじょ」とよばれる女性技術者・技能者などについての行動計画や施策は提示されていますが、「一般職」にあたる女性たち、つまり事務所（オフィス）で働く女性たちについての言及は、従来の固定的な職務分担に留まっているようです。

「建設ディレクター」とは、経営者家族とともにオフィスで活躍する女性たちの姿が当り前に見られる建設業の未来を目指すための、具体的な提案でもあります。

さて、いよいよ終盤に入った「第2期建設ディレクター育成講座」。9月19日には、建設業における原価管理入門として、建設コストマネージャーコース「コスト管理実務演習①」の講義が行われました。

①会社にとって必要な数字を知ること、②出来高(売上)をとらえる方法を知ること、③グループ化という手法を理解すること、の三つを目標に講義が始まりました。

まずは、経理担当者と現場監督に対して、経営者が求める原価管理の違いを明確化。コスト管理の仕組みを知り、「会社の現在(いま)」を会社全体で把握することにより、コスト管理への意識が変わることを学習しました。また、何のために利益を上げるのか、ということをグループワークで話し合いました。

さらに、コストを管理するために必要な一元管理とは何かについて、実行予算の重要性の解説がありました。また、実際にソフトを使って、データの入力を行いました。

17名の第2期生の皆さんは、熱心な学習で、建設業に対する大きな視点と、建設業の多様な日々の業務を把握する緻密な視点を身に付けて、建設業で大きく活躍する日が近づいています。

## □建設未来京都フォーラム設立趣意書

人々の暮らしを守り、豊かにする輝かしい建設業を取り戻したい  
—建設業の今を見つめ、未来を描こう

本来、建設業は現代文明の大きな成果であり、社会基盤として私たちを守る素晴らしい産業であります。今こそ、建設業に携わる人々が連携して自分たちの仕事に誇りを持って、建設業の課題を見つめ、素晴らしさ、やりがいなどの意義や展望を、自らの言葉で発信していくことが必要だと考えます。

また、次世代のために自分たちの手で建設業界の未来を担う人材を育てていくのだという強い気概が求められます。

建設業、建築業をはじめ関係者が小さな差異を克服し、建設業界を未来志向で捉え直し、一丸となって英知を結集する場として、「建設未来京都フォーラム」を設立します。

(2014年8月)

### 「建設未来京都フォーラム」設立発起人

代表 新井恭子（京都サンダー株式会社代表取締役）

建山和由（立命館大学理工学部環境システム工学科教授）

新井清一（京都精華大学デザイン学部建築学科教授）